

司法省民筆九五五號

三才五十四号 十月十四

人民ヨリ大藏大臣ニ對スル訴訟

別冊

東京控訴院同席見島縣永山盛之等

ヨリ

大藏大臣伯爵松方正義ニ對スル八

外

合米下ケ房領不當ノ處分取消ノ訴訟

訟

行政上ニ起レルモノナルヲ以テ行

政

裁判ニ屬スヘキモノト思考假條該院

閣

議決テ審理為致可然乎書類相添此段請

明

治廿三年十月九日

司法大臣伯爵山田顯義



内閣總理大臣伯爵山縣有朋殿

鹿兒島縣永山盛之等ヨリ大藏大臣ニ對  
スル八升一合米下度願不當ノ處分取消  
訴訟ノ件 本訴八升一合米ノ儀ハ明治五  
年九月鹿兒島縣權參事椎原國幹ヨリ  
該米八万石餘ハ士族卒出米者ハ差返スヘ  
ク伺出大藏省ハ伺之通聞置タルニ同年  
十月鹿兒島縣參事大山綱良ヨリ該米ヲ  
以テ小高魚祿士族授産ノ費金ニ相充度  
伺出タルモ大藏省ハ書面ニ趣難聞屆候  
條元出米致シ候高ニ應シ夫々割度可致  
儀ト可相心得尤右可受取者共ニ黒存  
於魚之ハ伺之通取計不苦事ト指令セリ

故ニ政府ハ明治五年ニ在テ已ニ大山綱良ニ  
對シ該米ノ徵收ヲ禁シ且徵收セシモノモ  
可受取者共ニ於テ異存無之外ハ悉皆  
返還スヘシト命令シ該米事件ヲ結了  
セリ然ルニ大山綱良ニ於テ之ヲ返還セス  
仍引續キ該米ヲ徵收消費セシ趣ナル  
モ右ハ全ク大山綱良カ政府ノ命令ニ背キ  
職權ノ範圍外ニ屬スル私擅ノ行為  
ニシテ所犯者自ラ其責ニ任ス可キモノナ  
レハ政府之ヲ負擔ス可キ理由ナシ況ヤ該  
米ハ所犯者ニ於テ之ヲ消費シ國庫ニ収  
入セラレタルモノニ非サレハ國庫ハ所犯者  
ノ行為ニ因リ毫モ不正ノ利得ヲ為シ

タルニ非ス故ニ租稅ノ課納ヲ以テ比ス  
可キモノニ非ス是ヲ以テ政府ハ之カ  
返還ノ義務ヲ負フ可キ理由ナシ  
且原告、於テモ該八升一合米ノ出  
米ハ廢藩置縣ノ舉ト共ニ全ク消滅  
ニ歸スヘキハ理ノ最モ賾易キ所ナリ云  
云ト云フ如ク該米ノ國庫ニ徵收セラ  
ル可キニアラサルコトハ原告既ニ了知シ  
居リタルモノナレハ大山綱良ニ對シ該米  
ノ返還ヲ求メス仍之ヲ納付シ綱良ノ消  
費スル所トナリタルハ畢竟原告ト綱良  
トノ間ニ於ケル關係ニ止マリ政府ハ更ニ  
関知セサル所ナレハ該米ノ下戻ヲ為ス

へキ義務ナキコトハ原告ノ了知スル所ナ  
リト謂ハサルヲ得ス故ニ原告ハ大藏大臣  
ヲ被告トシ本訴ヲ提起スル權利ナキモ  
ノトス此旨ヲ以テ訴状却下致サスヘシ

明治廿三年十二月廿六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

司字四四二

明治廿三年十二月廿六日

法制局長官

別紙司法大臣請議鹿兒島縣永山盛之等  
ヨリ大藏大臣ニ對スル八升一合米下戻  
願不當ノ處分取消ノ訴訟受否ノ件ヲ審  
査スルニ其要旨ハ本訴八升一合米ハ舊  
藩ノ制度ニ於テ士族ノ禄高一石ニ付八  
升一合ツ、ヲ引去リ之ヲ出米ト稱シ以  
テ軍備其他ノ費用ニ充テラレタルモノ

ニシテ此制度ハ廢藩置縣ト共ニ全ク消  
滅ニ歸スヘキ理ナルハ明治五年大藏省  
指令ニ徴シテモ亦明白ナリトス而ルニ  
鹿児島縣廳ニ於テハ置縣以後明治九年  
ニ至ルマデ仍ホ之ヲ徴收シ全ク特種ノ  
租税ト看做シ以テ官庫ニ扣除シタルニ  
依リ原告共ハ家禄ノ正額ヲ受取ラサル  
コト仍ホ舊藩代ノ當時ト毫モ異ナラス  
故ニ原告共ハ一面ニ於テ家禄ノ受取不  
足ヲ存シ他ノ一面ニ於テハ全ク不當ノ

租税ヲ徴收セラレタルニ相當ス而シテ  
事ノ茲ニ及ヒタルハ中央政府即チ被告  
ノ部下ニ屬スル官衙即チ地方廳ノ命令  
ニ出テ且其未額ノ如キモ正ニ地方廳ノ  
官庫ニ納リタルモノナルヲ以テ被告ニ  
於テ固ヨリ與知セスト云フヲ得サルハ  
徴税手續ニ徴シテ疑ヲ容レサルナリ故  
ニ原告共ハ其家禄ノ受取不足乃至租税  
ノ誤納額ニ付テ之カ下戻ヲ請願シタル  
ニ被告カ難聞届ト指令シタルハ不當ナ

ルヲ以テ茲ニ本訴ヲ提起シタリト云フ  
ニ在リ

按スルニ本訴八升一合米ノ儀ハ明治五  
年九月鹿兒島縣權參事椎原國幹ヨリ左  
ノ如ク大藏省ヘ伺出タリ

貳万七百四石五斗七升一合

但高一石ニ付八升一合宛

右ハ鹿兒島縣士族世祿高ノ儀一石ニ  
付三斗八升七合定代米ニテ腰書ノ通  
リ舊藩中適宜ヲ以テ非常軍備ノ爲ノ

一石ニ付八升一合ツ、士族家中申談  
官庫ヘ相屯置舊集成館并大藥ノ兩局  
ヘ宛行置候處右兩局トモ陸軍省ヨリ  
御引揚相成就テハ右二万石餘ハ士族  
卒ヘ差返至當ノ義ニ御座候間被仰召  
置度奉願候也

右ニ對シ大藏省ハ

書面願之趣聞置候事

ト指令シタルニ同年十月同縣參事大山  
綱良ヨリ尚ホ又大藏省ヘ左ノ通伺出タ

り  
鹿兒島縣世祿高ノ義三斗八升七合定  
納米ニ候處内八升一合舊藩中適宜ノ  
以テ非常軍備ノ爲士族中申談官庫へ  
屯置舊集成館并火藥製造兩局へ宛行  
置候處右兩局并陸軍省ヨリ御引揚相  
成就テハ右員數ノ石數ハ士族家へ本  
本ノ通差返至當ノ義ニ御座候間被聞  
召置度奉願候處願通御許可相成然ル  
處當縣ノ義ハ追々御届申上候通土地

不相應ノ士族家部ニテ如何程苦慮仕  
候テモ即今授産ノ方法難相立御座候  
間小高無祿ノ株へ授産ノ方法相立迄  
ノ間分配致度吟味仕候付被聞召置度  
此段更ニ申上候也

右ノ上申ニ對シ大藏省ハ左ノ通り指令  
セリ

書面之趣難聞屆候條元出米致シ候高  
ニ應シ夫々割戻シ可致義ト可相心得  
尤右可受取者共ニテ異存於無之ハ同

ノ通取計不苦事

故ニ政府ハ明治五年ニ在テ已ニ大山綱  
良ニ對シ談米ノ徵收ヲ禁シ且徵收セシ  
モノモ可受取者共ニ於テ異存之<sup>レ</sup>無キモ  
ノヲ除ク外ハ悉皆返還スヘシト命令シ  
談米ノ事件ヲ結了セリ然ルニ大山綱良  
ニ於テ之ヲ返還セス仍引續キ談米ヲ徵  
收シ且參照第一號記載ノ通り之ヲ消費  
セシモノニシテ其後十八年度ニ至リ縣  
令ハ士族ノ請願ニ基キ大藏省ニ伺出大

藏卿ヨリ之ヲ太政官ニ伺出相成リ詮議  
ノ末參照第二號ノ如ク訓令相成居タル  
ニ本年ニ至リ原告等ハ更ニ大藏大臣ニ  
請願シ之カ聽許ヲ得サルヲ不當トシテ  
遂ニ本訴ヲ提起シタルモノニ係レリ  
前段及參照第二號記載ノ事實ニ依レハ  
廢藩置縣後談八升一合米ヲ徵收シタル  
ハ全ク大山綱良カ政府ノ命令ニ背キ職  
權ノ範圍外ニ屬スル私擅ノ行為ニシテ  
所犯者自ラ其責ニ任ス可キモノナレハ

政府之ヲ負擔ス可キ理由ナシ況ンヤ參  
照第一、二號ノ如ク談米ハ所犯者ニ於テ  
之ヲ消費シ國庫ニ收入セラレタルモノ  
ニ非サレハ國庫ハ所犯者ノ行為ニ因リ  
毫モ不正ノ利得ヲ爲シタルニ非ス故ニ  
本件ハ租税ノ誤納ヲ以テ比ス可キモノ  
ニ非ス是ヲ以テ政府ハ之カ返還ノ義務  
ヲ負フ可キ理由無し且原告ニ於テモ談  
八升一合米ハ廢藩置縣ノ舉ト共ニ全ク  
消滅ニ歸スヘキハ理ノ最モ睹易キ所ナ

リ云々ト云フ如ク談米ノ國庫ニ徵收セ  
ラル可キニアラサルコトハ原告既ニ了  
知シ居リタルモノナレハ大山綱良ニ對  
シ談米ノ返還ヲ求メス仍之ヲ納付シ綱  
良ノ消費スル所トナリタルハ畢竟原告  
ト綱良トノ間ニ於ケル關係ニ止マリ政  
府ハ更ニ聞知セサル所ナレハ談米ノ下  
戾ヲ爲スヘキ義務ナキコトハ原告ノ了  
知スル所ナリト謂ハサルヲ得ス故ニ原  
告ハ大藏大臣ヲ被告トシ本訴ヲ提起ス

ル權利ナキモノト信認ス

指令案

鹿児島縣永山盛之等ヨリ大藏大臣ニ對ス  
ル八升一合米下戻願不當ノ處分取消訴訟  
ノ件本訴八升一合米ノ儀ハ明治五年九月  
鹿児島縣權參事椎原國幹ヨリ談米貳万石  
餘ハ士族率出米者ヘ差返スヘク伺出大藏  
省ハ伺之通相置タルニ同年十月鹿児島縣  
參事大山綱良ヨリ談米ヲ以テ小高無祿士  
族授産ノ費途ニ相充度伺出タルモ大藏省

ハ書面之趣難聞屆候條元出米致シ候高ニ  
應ニ夫々割戻可致義ト可相心得尤右可受  
取者共ニテ異存於無之ハ伺之通取計不苦  
事ト指令セリ故ニ政府ハ明治五年ニ在テ  
己ニ大山綱良ニ對シ談米ノ徵收ヲ禁シ且  
徵收セシモノモ可受取者共ニ於テ異存無  
之外ハ悉皆返還スヘシト命令シ談米事件  
ヲ結了セリ然ルニ大山綱良ニ於テ之ヲ返  
還セズ仍引續キ談米ヲ徵收消費セシ趣ナ  
ルモ右ハ全ク大山綱良カ政府ノ命令ニ背

キ職權ノ範圍外ニ屬スル私擅ノ行爲ニシ  
テ所犯者自ラ其責ニ任ス可キモノナレハ  
政府之ヲ負擔ス可キ理由ナレ況ヤ談米ハ  
所犯者ニ於テ之ヲ消費シ國庫ニ收入セラ  
レタルモノニ非サレハ國庫ハ所犯者ノ行  
爲ニ因リ毫モ不正ノ利得ヲ爲シタルニ非  
ス故ニ租税ノ誤納ヲ以テ比ス可キモノニ  
非ス是ヲ以テ政府ハ之ヲ返還ノ義務ヲ負  
フ可キ理由ナレ且原告ニ於テモ談八升一  
合米ノ出米ハ廢藩置縣ノ舉ト共ニ全ク消

滅ニ歸スヘキハ理ノ最モ賸易キ所ナリ古  
古ト古フ如ク談米ノ國庫ニ徵收セラル可  
キニアラサルコトハ原告既ニ了知シ居リ  
タルモノナレハ大山綱良ニ對シ談米ノ返  
還ヲ求メス仍之ヲ納付シ綱良ノ消費スル  
所トナリタルハ畢竟原告ト綱良トノ間ニ  
於ケル關係ニ止マリ政府ハ更ニ関知セサ  
ル所ナレハ談米ノ下戻ヲ爲スヘキ義務ナ  
キコトハ原告ノ了知スル所ナリト謂ハサ  
ルヲ得ス故ニ原告ハ大藏大臣ヲ被告トシ

本訴ヲ提起スル權利ナキモノトス此旨ヲ  
以テ訴狀却下致サスヘシ

明治廿三年十一月廿六日



番外七号

明治九年相當八升合米處分方ノ儀ニ付  
上申

本縣士族家祿草高老石ニ付八升合米ト唱曰  
縣令通宣ヲ以テ課出致シ救助勸其他ノ庫ハ仕  
拂未候處明治八年迄ハ丈々給与決義済ニ有之  
候處九年分ノ儀ハ別紙甲号諸谷国安異田長禧  
口供ニ寄リ候ハハ是亦悉皆決義仕拂済ノ姿ニ  
屬候ハ共其實十年二月四日令專断ヲ以テ家  
祿ノ庫ハ下渡候米辻及小官赴任ノ際旧米倉内

ニ貯蓄有之候米五千餘俵ノ辻等ニモ或ハ籠居  
候哉モ難計候様被相考殊ニ該年度八升壹合米  
下渡ノ義往々願出候モ有之候ニ付何分ノ御  
指揮相成度此段上申候也

明治十二年一月六日 鹿兒島縣令岩村通俊

大藏卿大隈重信殿

指令

上申之趣三月四月等ニ旧縣令專斷ヲ以テ下  
渡シ候家禄ノ儀ハ地租米ノ内ヲ以テ支出候  
儀ニ付九年分ノ八升壹合米ハ之ニ關係ノ助

無之右八升壹合米ノ儀ハ流谷國安外一名口  
供ノ通り支々仕拂済ノ訳ニ付今更下度候儀  
ハ難聞届候事

十二年四月三十日

卿

庶民爲縣家福賞典ノ實地渡高ヲ檢査者ニ上申  
面ヨリ過ニ賦少工此ニ何故ナルヤ云々御推問  
ニ有之太ニ舊一課六課同管ノ件ニテ六課ニ毎  
口一課ノ元漸ヲ押入致仕掛渡儀ニ從ハ共勘定  
組ニ至テ六課其責不可免筋ニ付從來ノ手續  
ハ左ニ具述仕候者家福ノ内應給致レ来候ニ石  
以下ノ分ニ元未藩制ノ頃給地高二十五石以下  
ノ少高及老高ノ者ハ救助ノ右義ヲ以テ給典有  
之候ヲ明所度年以降定録ニ引直シ渡者ニ後

候其請言極ニ相漏ニ式ニ二十石以上ノ  
者ハ然レニ二十五石以下ノ者ハ此ハ廿石等  
有之者申年新ニ將廢ヲ被置候節進ニ改正ノ  
情リヲ以テ人爲ヲ不頭只張額ト戸数トヲ以テ  
及御所有之答此ニ調漏ノ者等額ニ答情ヲ訴  
候ニ付二十石以上ニ至テ太新祿ヲ有スル分  
ハ割之二十五石以下ノ者ハ轉給取計候ハ何  
分多數ノ調漏ニ付此ニ御所爲ニ至ハ不引是ヲ  
以テ進ニ其趣ヲ具狀レテ、阿蘇所以在衛門外  
十六名、此中ハ許可所ニ有之其未得許可分可

差降ハ申論ニ候ハトモ元來調方ノ粗漏ヨリ然  
不給ノ果同有之ハ不公平ノ旨強訴候向ニ有之  
不得止進ニ再ヒ上中ノ情リヲ以テ差向出米ヨ  
リ結果取計置候分ハ有之候舊典ニ至テハ杜撰  
ノ尤甚者ニ至最初軍功ノ四等ニ分テ後裔人爲  
石數明細取調ノ上上中可及ノ如等級ヲ甄別ス  
ルニ當リ何分最多ノ人實ナルヲ以テ廢下ノ分  
スラ不行面取之進ニ精換ノ上更ニ御引直可相  
願トノ詮議ヨリ不取致出米ヨリテ救助致シ有  
之清祿取等ノ向キニ補填シ人實額及御所有

此如實際歷方：臨：既而重複及調遣等ノ方陸  
統重露シ其上最初賞典、外城士族、及士二同  
敷決議、如地輩ヨ、モ苦情、唱ラシテ、以テ秋  
分刻度渡高最前ノ御面高ヨ、超過ニ付、以テ不  
足ノ分、具狀シ、事得許可分、新祿同様出来ヨ  
リ、然典取計置渡ニ付、實地渡高請高ヨ、超過渡  
ハ、時々渡儀、無之、若尤テ石以下ノ家祿タルヤ  
其至救助ヨ、也渡ニ付、官吏トナリ、別ニ、中流ノ  
道有之渡者、其月ヨ、家祿ヲ引揚渡四例ニ有  
之故：賞典トテモ前述ノ通り、救助ノ部ヨリ、向

立候分不サ、レニ、是亦官吏家替トナシ、家  
祿ノ例ニ、並レ其賞典ヲ引揚渡類ニ有之渡ニ付、  
持：家祿賞典渡方ニ就テ、御検査相成候ハ、要  
分、有難有之様相見可申渡、トモ、元來、庶民諸  
將訪掛ノ四法、タルヤ、通常掛下ノ外ニ、出来掛別  
年掛トシテ、手限、仕掛向有之、其通常掛ト、大  
前ヨリ、受取渡来金ヨ、仕掛渡モ、ノヲ、指レ出  
来掛ト、士族持、草高一石ニ掛ルハ、廿一合ノ  
軍備来ト、細草高一石ニ掛ル、老井一石ノ賦来ト  
、后高ヨ、掛出ス、竹守ニシテ、別途掛ト、諸掛

ノ特殊等規則外收入ノ米屋ノ記録ニ照ス之ヲ  
別進ニ移シ御下ニ高き出来ニハ仕掛難行而即  
ノ豫備ニ有之古ノ以テ廉價有難ノ分ハ悉皆別  
進ノ部ニ移シ候由來ニハ近年ハ至ッ右ハ升一  
合ヨリ繰脱ヲ引タリ一升一合ハ氏曆相当ノ云  
ハ振向ニ候ヲ以テ出来ノ多寡ハ存在候ハ共其  
宜故助扶持ニ可充十々一ニ引タリ不申殊ニ  
近來勅業事務進ハ御老給相成候ニ付定貨外府  
出仕ノ方ノ月給除費其他從來出来日ハ終來候  
出納検査役月給諸前取掛役諸費等將應未平給

料手数廉ノ掛方出来無之上ハ別進ヨリ掛ハ可  
止ヲ得又至缺當ニ家禄當典ノ仕掛録ノ三十九  
又別ニ米ヲ以テ御推問相成リ候而米運賃ノ通  
利等モ然ニ別進ノ部ニ在テ右等ノ仕掛ニ相成  
候譯ニハ米之請高ヨリ掛高時ハ候漸ハ右ニ差  
之候ハ共廉價決定ハ不遂公私混淆ハ仕掛致シ  
候終ハ旧慣トハ申申更右鄰右ト存候且又家  
禄當典元術ノ儀ニ付テハ尚一課四主任ノ者モ  
有之進ハ御推問可相成候ハ共前進ノ通錯難  
極候ニ付其誤差還進ニハ進ニ公情証后御下付

ノ際ニ臨ミ必定不可言不却后ヲ可生ト昨年来  
整理方ニ取掛リ終地ノ分ニ異成候ニ付其如  
ヘ内同ヲ経此後進達ノ年等ニ付已ニ東京ノ有  
達所尚六石以下ノ家祿表賣典ノ分ニ進ハ整頓  
ニ付テ候ニ付無成ノ上ニ前同様ノ振込ヲ以テ  
進達ノ節ニ最初ヨリ至任ノ始トシ夫レ進退  
同書相係右面達荒石数等而高ト粗糲ノ分ハ一  
派衝引直可相願トノ年等ニ候如不及其内缺  
節ノ形勢ニ至リ派衝ニ有テ候事

明治十年八月十三日

浪石国守 不詳

箕田長徳 不詳

廣見島縣訪信ノ海明正八年ヨリ、中現ノ通、  
多録、以テ渡方可取計、如從來正米渡、紫望  
渡習慣、廿四年正米不足、分、百石貢入方、  
多、后、渡以茅、同年、如論九年分共正米  
渡取計渡漸、有之尤可取米取、向、石代望  
、者、代屋ヲ以テ可相渡渡、共納受、年頃、  
有之末十年七月以降、渡方ノ運、不至  
至、九年十月四縣令、及布達渡如石代渡相  
願、渡者運、四千石、不滿、有之然、其後管

法  
訓  
編

下一般、雖撥、前々相見候故、此に受取云致  
願候方差凌候、且本年三月、至、外則一般正  
本渡ノ事、相決、手形渡、云取計候儀、有之  
候事

但國安國本年二月已降、不在、候、其從來  
、特宣本文ノ通、付達寄仕候

明治十年八月十四

依公國安花村

其田長禧為押

參照

明治十年八月十四日合米三石四斗八升

別紙舊鹿兒島藩士族賣買禄ニ係ル八升一合米  
下戻願處分方ノ儀大蔵省申稟、旨趣ハ抑八升  
一合米ナル者ハ島津家數百年來、特別稅法ナ  
ルモ廢藩置縣ノ後ハ此法ヲ存スヘカラス故ニ  
大蔵省ハ明治五年十月舊鹿兒島縣參事大山綱  
良ヨリ談米ヲ以テ小高無高ノ者ヘ分配ノ儀伺  
出ニ對シ伺、趣難聞届候條元出米致候者ヘ割  
戻スヘキ旨指令シタリ然ルニ同縣ハ其指令ヲ  
奉行也ス專斷ヲ以テ尚五箇年同之ヲ徵收シタ

リ因テ出米者ハ其專斷ニ係リタル損害ノ償還  
ヲ願出タルモノナリ然ルニ右大藏省ノ指令ハ  
縣令ニ對スルモノニシテ縣令ハ此指令ヲ受タ  
ル所以ノ者ハ人民ノ請願ニ出ルニ非ス故ニ當  
省カ指令ヲ爲シ縣令カ之ヲ執行セサルモ畢竟  
政府中ノ事ニシテ人民ノ関カル所ニ非ス當省  
ヨリ縣令ニ指令ヲ爲スト雖モ縣令ノ執行セサ  
ル間ハ未タ談米ヲ免除シタルモノト云フヘカ  
ラス果シテ然ラハ其收入米ハ人民ノ所有ニ歸  
セサルナリ凡ソ行政官越權ノ處置アルトキハ

其罪ヲ罰シ其事ヲ止ルノミニシテ既往ノ責ヲ  
政府ニ負擔スヘキモノニ非ス本件ノ如キ縣令  
ニ於テ擅ニ之ヲ取立之ヲ仕拂ヒ事既往ニ消滅  
セシヲ以テ其專斷ノ罪ヲ論スルモ其事ヲ回復  
スヘカラス且發覺ノ後ハ之ヲ免除シタルノミ  
ナラス縣令モ亦刑ニ死シタルヲ以テ今更當省  
ト縣令ノ間ニ係ル指令ヲ傳聞シ之ヲ口實ト爲  
シ出米ノ割戻シヲ訴出ルモ到底採用スヘキモ  
ノニ非スト云フニアリ

第二局調査ノ要點ハ談米ハ尋常ノ禄法ヲ以テ

取立タルモノニ非ス全ク軍備ノ爲メ該士族、  
共同出米セルモノナリ而シテ廢藩置縣ノ際旧  
集成館并ニ火藥製造兩局トモ陸軍省ヘ引揚ノ  
上ハ右出米ヲ要スヘキ理由ナキヲ以テ大藏省  
ハ其申稟ニ對シ元出米ノ高ニ應シ夫レ割戻ス  
ヘキ旨ヲ指令シタルナリ政府ハ既ニ該米ヲ以  
チ士族ニ還付スヘキモノタルヲ認了シ其指令  
後ハ國庫ヨリ支出スル士族禄高中該米ヲ引去  
ラサルノミナラス縣令ニ於テモ井上貞教ナル  
モノ、請願ヲ許シ之カ割戻ヲ爲シタルカ如キ

獨リ政府中ノ指示ニ止ラス已ニ其指令ノ一部  
分ヲ行ヒタルモノニシテ其措置周到ナラサル  
モ實施ノ形跡ハ掩フヘカラサルナリ政府已ニ  
其割戻スヘキモノナルヲ認メ人民モ亦其性質  
ト形跡トニヨリ各自ノ領收スヘキモノト信認  
シタルハ敢テ不當ト謂フヘカラス然ルヲ大藏  
省ハ軍ニ其指令ハ畢竟政府中ノ事ニシテ人民  
ノ関カル所ニ非ストノ辭柄ヲ以テ該請願ヲ拒  
絶セントスルモ到底爲レ得ヘキニ非ス又行政  
官越權ノ處置ハ其事項ノ如何ニ由リ其處置ヲ

異ニスルヲ以テ豫メ之ヲ概言スルヲ得サレト  
モ其法律規定外ノモノ等ヲ徴収シタルカ如キ  
ハ理事者ノ處罰如何ヲ論ヤス其徴収ヲ止メ其  
已ニ徴収シタル部分ヲ返付スルハ理ノ當然ナ  
リ然ルニ該省ハ已ニ消費シ盡シタル今日ニ在  
リテハ其專斷ノ罪ヲ論スルモ其事ヲ回復スヘ  
カラスト云フハ莫理其當ヲ得タリト謂フヘカ  
ラス右等ノ理由ニ付該米ハ下渡サ、ルヲ得サ  
ルモノナリト云フニアリ

参事院特別調査ノ要旨ハ該米ハ戰時平時ヲ同

ハス軍費其他ノ公費ニ支出シ士族等ハ毫モ其  
間ニ喙ヲ容ル、能ハサルモノニシテ一種ノ祿  
制ナリ第二局所論ノ如キ共同物件ニハア、ラサ  
ルナリ大藏省申書中聊カ論理ヲ欠ク所ナキ  
ニ非スト雖モ其大意ニ至テハ同然スル所ナシ  
大藏大輔ノ指令ハ縣令ノ上申ニ對スルマテニ  
シテ畢竟政府中ノ事ナリ之ヲ發布セサル間ハ  
士族ニ於テ所有權ヲ有スルノ理ナシ豈所有權  
ナキ士族ニ於テ其賠償ヲ請求スルノ理アラン  
ヤ又井上貞教ニ下渡しタル例アリトスルモ一

人ニ對スル特別ノ處分ニシテ一般ニ施行シタ  
ルモノニ非ス之ヲ以テ士族等カ其所有權ヲ得  
タルモノトナスヲ得ス況ヤ其實跡明瞭ナラサ  
ルニ於テヲヤ右ニ由リ該請願ハ採用セラルヘ  
キ理ナシ第二局意見ノ如キハ收籍奉還以後諸  
禄更定ノ実況及其法律ニ注意セズ共有物件ト  
誤認シタルニ過キスト云フニアリ

於是司法卿ハ別紙ノ通意見書ヲ差出シタリ其  
論旨ハ本件ニ關シ論究スヘキハ該米ノ性質如  
何ニアラス政府ハ請願者ニ對シ賠償ノ義務ア

リヤ否ヲ判定スルノ一點ニアリ凡ソ政府ハ人  
民ニ對シ官吏カ其權限ヲ超越シテ為シタル所  
爲ヲモ擔保スヘキノ義務ナシ只政府ハ其任ス  
ル所ノ官吏ノ所爲越權ナリト認ムルトキハ當  
ニ之ヲ停止シ其越權ノ輕重ニ從テ懲戒ノ處分  
ヲ爲スヘキナリ假令其所爲ニ因リ人民ニ損害  
ヲ被ラシメタル事アルモ其所爲ハ越權即チ官  
職委任外ノ所爲ナルヲ以テ政府ハ之ヲ賠償ス  
ヘキノ義務ナキナリ之ヲ以テ本件ノ如キ損害  
ノ位置ニ立ツヘキモノハ政府ニアラスレテ請

願者ニアルコト復々疑ヲ容レス依之本請願ハ  
採用スヘキノ理ナレ但大藏省所論ノ當省カ指  
令ヲ爲シ縣令力之ヲ執行セサルモ畢竟政府中  
ノ事ナリトノ一段ハ論理允當ナラスト云ヘリ  
依テ前數説ヲ併セ考フルニ第二局ノ意見ハ先  
ツ談米ノ性質ヲ穿鑿シテ純然タル共同物件ト  
ナレ廢藩後ハ必ス割戻スヘキモノト認メタル  
ヨリ縣令ノ處置如何ハ第二級ニ置キタルヲ以  
テ全篇底保ノ説タルヲ免レス廢藩後談米ノ割  
戻スヘキハ已ニ大藏大輔ノ指令アリ今ニ於テ

數百年前ニ溯リ其性質ヲ推究スルヲ要セス強  
テ之ヲ求ムルトキハ或ハ大藏大輔ノ指令寧ロ  
大寬ナルヲ覺フ何トナレハ談米ハ平常在江戸  
家老ヲ始メ士族以上ノ旅費月俸ニ支用シ享保  
年間江戸入費平均ヲ以テ草高ニ應シ以テ定額  
トナシタルハ四本休左衛門請願書中ニ詳ニシ  
テ士族等ハ其間毫モ喙ヲ容ル、能ハサル一種  
ノ租税ナレハナリ集成館火藥製造兩局ノ費用  
ニ充テタルハ最後ノコトナリ此際論究スヘキ  
ノ要點ハ司法卿意見書ノ通政府ハ請願者ニ對

ニ辨償ノ義務ヲ有スルト否トヲ判定スルニア  
ルノミ官吏越權ノ行為ニ付テノ責任等ハ同意  
見書ニ詳ナルヲ以テ爰ニ贅セス第二局越權云  
云ノ論ハ其理ハ至当ナルモ其事實ノ本件ニ適  
合セサルヲ以テ復タ論スルヲ須ヒス要スルニ  
本件被害者ノ位置ニ立ツヘキ者ハ政府ニ非ス  
シテ請願者ナリ何トナレハ政府ハ曾テ該米ヲ  
收入シタルコトナク全ク舊縣令職任ヲ越ヘ私  
擅ニ之ヲ取立之ヲ支用シ盡シタルモノニシテ  
舊縣令一身ノ所爲ナレハナリ

右ノ理由ニ付到底該請願ハ採用可相成モノニ  
無之ト認定ス但大藏省訓示案中當省カ指令ヲ  
爲シ縣令カ之ヲ施行セサルモ畢竟政府中ノ事  
ニシテ人民ノ関カル所ニ非ス云々ハ司法卿意  
見書ニ縷述ノ通事理允當ナラス且縣令ノ執行  
セサル間ハ未タ該米ヲ免除シタルモノト云フ  
ハカラストノ論ハ或ハ縣令專横ノ行為ヲ公認  
スルノ嫌アリ後段越權云々ト撞着スルニ似タ  
リ依テ訓示案左ノ通修正セシメ可然哉御指令  
案ヲ具シ仰高裁候也

御指令案

伺通

但訓示案別紙ノ通修正可致事

明治十八年十月五日

訓示案

其縣士族八升一合米割戻方再三ノ歎願ニハ  
候得共當省ハ明治五年十月舊參事大山綱良  
ヨリ詠米ヲ以テ小高無高ノ者ニ分配致度伺  
出ニ對シ伺ノ趣難聞届候條元出米候者へ可  
割戻旨指令ニ及ヒ爾來國庫ヨリ支出スル禄  
高ハ無論詠米ヲ引去リタルコトナク其縣ヨ  
リハ毎年金數ノ禄高渡済ノ旨勘定仕上届出  
タリ然ルニ旧縣令ニ於テ陰ニ當省ノ指令ヲ

奉行セス尚ホ五箇年間従前ノ通取立タル趣  
ニ候得共政府ニ對シ賠償ヲ請願スルハ事理  
ヲ誤ルモノト謂フヘシ何トナレハ該米ヲ取  
立タルハ全ク旧縣令カ職權ヲ越エタル私擅  
ノ所爲ニシテ政府ニ於テハ曾テ之ヲ取立タ  
ルコトナケレハナリ故ニ政府ハ縣令越權ノ  
罪ヲ論スヘキモ其私擅ノ所爲ニ對シ其責ニ  
任シ賠償ヲ爲スヘキモノニアラス  
右ノ理由ニ依リ本件ハ幾回願出ルモ到底採  
用スヘキモノニ非サルヲ以テ太政官ノ裁定

ヲ經テ指令ニ及ヒタル儀ニ有之候條寫ト説  
諭可致此旨及訓示候也

明治十八年公文別録、四、可記録、百、一、

法務局三第 五五 号

十月十一日

司法省民第一九九六號

人民ヨリ大藏大臣ニ對スル訴訟

受理ノ義ニ付キ請議

別冊東京控訴院伺鹿兒島縣長八次郎等  
ヨリ大藏大臣伯爵松方正義ニ對スル八  
升壹合米下ケ戻願不當ノ處分取消ノ  
訴訟ハ行政上ニ起レルモノナルヲ以テ行  
政裁判ニ屬ス一キモノト思考候條該院  
ニ於テ審理為致可然乎書類相添此  
段請閣議候也

明治廿三年十月十日

司法大臣伯爵山田顯義

内閣總理大臣伯爵山縣有朋殿

